未来医療研究人材養成拠点形成事業
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
[テーマＢ：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]

整理番号	Ｂ－１２

申請担当大学名 （連携大学名）	長崎大学 （長崎純心大学）計２大学
事業名	つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 ～人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成～
事業責任者	医学部長　下川　功

事業の概要

地域包括ケアシステムを理解し、円滑に実践できる人材を育成する。関わる全専門職種と良好な連携が取れ、多様な医療を提供できる医師、さらに、超高齢化社会に伴う諸問題を研究する医師を継続的に輩出する仕組みを構築する。

医療・福祉・介護・介護予防等の地域包括ケアシステムや急性期病院、回復期リハビリ病院、自治体等の教育資源を統合し、活用する。

カリキュラムを再編統合し、卒前・卒後一貫教育システムを構築する。卒前は地域ケア実習を含め、地域包括ケア教育を全医学生が受ける。医療・福祉系の共修や地域実習の中で多職種連携の重要性を学び、さらに卒後臨床研修や生涯教育に繋げ、総合的診療能力やマネジメント能力の養成を図る。

長崎純心大学と連携し、相補的な教育体制を確立し、地域包括ケア教育の質を向上させる。

地域中核病院に連携大学院、地域包括ケア講座を開講し、地域包括ケアの研究を推進させると共に、若手医師の研究志向を啓発する。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○地域包括ケアを学部教育に取り入れている点（総合診療医を目指さず、他の専門医を目指す者への教育も重要)、既存の高齢者支援地域ネットワークと連携している点、地域病院に連携大学院を置いている点、女性教員を積極的に採用している点は優れている。

○離島・へき地医療、在宅医療などに先進的に取り組んでいる実績を活かしている。

●事業背景に問題点が述べられているもののその１つ１つに対する解決が図られるプログラムとなるよう期待したい。

●教育プログラム・コース内容の充実を期待したい。

●物品費が高額であるが、費用対効果が求められるため、物品を有効に活用できる仕組み作りに期待したい。